

技術開発完了報告

関東森林管理局

課 題	溪畔における天然広葉樹導入技術の開発				開発期間	平成 20 年度 ～平成 21 (24) 年度			
開発箇所	横山国有林 1078 り林小班	担当 部署	森林技術センター	共同研 究機関		技術開 発目標		特定区 域内外	○
開発目的 (数値目標)	<p>水辺域に成立する人工林に進出した天然木を育成していくため、望ましい上木の密度調整の方法等を明らかにする。また、より若年(15年程度)時点からの針広混交林・広葉樹林へと誘導を効果的に進めるため、望ましい除伐の方法等を明らかにする。なお、誘導する目標は試験区域の流域の溪畔に存立する針広混交林・広葉樹林とする。</p>								
実施経過	<p>平成 20 年度 ○既設試験地 ・進入植生モニタリング調査 (植生と天然更新調査、種子の調査)</p> <p>平成 21 年度 ①既設試験地 ・進入植生モニタリング調査 (植生と天然更新調査、種子の調査)</p> <p>②新設試験地 ・区域の設定 ・現況把握</p>								
開発成果等	<p>本課題は経常課題「溪畔林の施業技術の開発(開発期間：平成 16 年度～平成 19 年度)」を一端完了させ、既試験地での進入植生の推移および既試験地の対岸での天然広葉樹導入技術の開発を目的に経常課題「溪畔における天然広葉樹導入技術の開発(開発期間：平成 20 年度～平成 24 年度)」として開発を進めてきたところである。</p> <p>また、技術開発の成果として平成 23 年度に作成する予定の「溪畔における針葉樹人工林の針広混交林化のための手引書」の作成のため進入植生モニタリング調査等を行い必要なデータの収集を行ってきた。</p> <p>このような中、平成 22 年度の林野庁の重点課題としてのテーマが、「森林と人との共生を重視した森林施業及び利用技術の確立～森林における生物多様性の保全等のための森林管理技術」に関するものであることから、この経常課題を完了させて林野庁の重点課題へ応募することとする。</p> <p>〈参 考〉 (調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光環境改善のため、抜き伐り等を実施した結果、全天空写真を用いた開空度が 11.5%であったものが、16.9%となり、広葉樹の種類数は、5プロットで 2～6 種であったものが、12～20 種となっている。 ・抜き伐り後の出現した広葉樹の樹高は 20 cm 程度になっており、多くの溪畔林構成種が発生し定着しつつある。 <p>(普及啓発)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 19 年 10 月 森林技術センター主催公開講座にて発表 ・平成 19 年 10 月 第 59 回日本森林学会関東支部大会発表 ・平成 21 年 9 月 森林施業研究会における現地検討会により本課題の目的・取組などを発表。 								